

野代村庄兵衛の旅

江戸時代の後期、名所や旧跡めぐりの旅が流行しました。野代村の村民
庄兵衛は約5ヵ月にわたって、浄土真宗の開祖である親鸞や蓮如ゆかり
の旧跡を巡拝しており、当時の巡拝帳がのこっています。

庄兵衛の旅は文久2年（1862）3月からはじまります。事前に自身が所
属する金沢の慶覚寺で、自身の身分と旅の目的を記した証文を授かっ
ており、これを携帯して旅に出ました。

巡拝帳の記帳は、越後（新潟県）からはじまります。日本海側から盛岡
（岩手県）まで北上し、6月には下野（栃木県）へ南下、江戸（東京
都）を通過し、東海方面へ向かっています。その間に巡拝した寺院は約
160箇所にも及びます。

8月24日、現在の愛知県岡崎市針崎の勝万寺を参詣したのを最後に、庄兵
衛は体調をくずします。数日後、同針崎の庄屋（村役人）は「送り一札」
として、野代村までのそれぞれの宿場に対して庄兵衛を送り届けるよう求
めています。これは、当時の宿場の制度として、病気になった者などを次
の宿場まで送り届ける義務があったためです。

こうして庄兵衛の約5か月にわたる巡拝の旅は終わりますが、巡拝帳や、
各寺院の刷り物が大切に保管されています。帰郷後は旅先で見聞きしたこ
とを、周りの人々に伝えていたのかもしれない。